
台湾の靴産業と「財団法人鞋類暨運動休閒科技研發中心」(FRT)について

都留文科大学・文化人類学 山本芳美

はじめに

2010年3月22日から2週間、台湾に滞在する機会をもった。東京から飛行機で南に3時間で到達する台湾には、2000年から約3年間留学していた。筆者にとっては、第二の故郷のような場所である。筆者はこれまで台湾の先住民族やイレスミに関する文化や歴史に関する研究に従事してきたが、今回の滞在中に、日本語訳すれば「財団法人鞋類および運動レクリエーション技術研究センター」(英名Footwear & Recreation Technology Research Institute 通称FRT)を訪問する機会をもった。企画推廣組(広報)の候満芳(ジョイス・ホー)さんに、今年1月に新設された台湾の靴生産の歴史を概観する見学コース「鞋業文化廊道」(Footwear Culture Gallery)をご案内いただきながら、靴産業全般についてお話をうかがってきた。この稿では、資料とお話を基に台湾の靴づくりについての概況とFRTについて紹介していきたい。

靴生産から見た台湾の概況

まずは、靴生産をめぐる台湾の概況に触れておこう。台湾は、1970年代に合成皮革の生産で全世界の50パーセントを占め、トップを走っていた。1976年から1987年まで靴類の輸出は世界最大量を達成しており、1980年には4億1300足、14億ドルに達して、紡績業、電子産業についで台湾三大

輸出業となっていた。しかし、現在の総生産量のトップは中国に取って代われ、2005年では8826万4千ドルで全盛期の約6%である。

しかし、現在も靴生産は台湾の重要な産業と位置づけられている。たとえば、1997年に台湾第二の都市である高雄市に開館した国立科学工芸博物館6階の「台湾工業史蹟館」では、台湾を世界の「製造王国」に押し上げた十産業の歩みを紹介している。その産業とは、テニスラケット、紡織、自転車、コンピュータ、食品、家電、石油化学、半導体、鉄鋼、製靴産業である。また、同博物館の『台湾産業史系列叢書』では、自転車、紡績、テニスラケット、コンピュータ等の産業史が刊行されている。その3冊目には、社会学者の楊凱成氏による台湾の製靴産業史が上梓されている。このことから、靴生産は台湾経済を支えてきた産業とみなされていることがわかる。

生産地をみると、かつては台湾全域に工場があったそうだが、中国や東南アジアへ移転した結果、現在は三重市と台中市、台南市に集中する傾向がある。浅草にどこか似た雰囲気漂う三重市は、手縫い靴の産地となっている。三重市に行くと「手工鞋」の看板を見かけることが多く、格子廠(グーズチャン)と呼ばれる手縫い鞋の作業場が点在している。台中市は1960年代からケミカルシューズや運動靴などの製靴会

社が集まり、古都の台南市はゴム長靴などを生産してきた。

台湾は以前、OEM生産がほぼ全体を占めていたが、現在は2割が自前のブランドで販売している。台湾のOEM生産は、1969年創業の宝成工業が成功例として有名である。宝成工業はヘップサンダルやケミカルシューズを製造する中小メーカーから、1978年よりスポーツシューズの受託生産を始め、その後ODM（相手先ブランドでの設計から製造までを担当）へと転換を図った。生産ライン376本、年産20億足を生産する世界最大級のスポーツシューズ受託メーカーと言われている。受託製造している国際的ブランドは、ナイキ、アディダス、アシックス、リーボック、プーマ、ニューバランス、メレル、ティンバーランド、コンバース、サロモンなどで、全世界で5人に1人が宝成製の靴を履いていると言われている。1999年には電子業界にも進出し、07年売上高は1,877億台湾元（約6,296億円）に上り、従業員数はグループ全体で28万人近くに達している。

また、台湾の靴メーカーとしてはLa Newが急成長している。1996年に台北で創業したLa NewはテレビCMを盛んに打って急成長を遂げ、2003年に台湾のプロ野球チームを買ってオーナーとなった靴メーカーで、2002年には足の測定に力を入れた足部研究所を設立している。La Newでは、イギリスから牛革を輸入し、カンボジアとベトナムで生産して、日本、アメリカ、イギリスなどでも販売している。筆者の留学当時は、エアクッションの効いた紳士靴と婦人靴の革靴メーカーという印象だった。現在は様変わりして、スポーツウェアやジーンズなども150店を数える直営店に置き、カジュアル・アウトドアウェアと靴を総合的に扱っている。

台中にあるFRT

さて、FRTは台湾第三の都市である台中市にある。台中市は1999年に台湾中部大地震で甚大な被害を受けたが、みごとに復興している。台湾最大の都市である台北から台湾新幹線に乗れば1時間で台中市に着く。FRTには、新幹線「台中」駅から「東海大学」を経由する無料のシャトルバスで「中港澄清（澄清医院）」まで行き、それからタクシーに乗るとよい。



FRT本部概観

FRTは1989年に靴業界の組織にあたる台湾区製鞋工業同業公會が設立した製靴学校が基となっていて、1991年に台湾政府の經濟部工業局と2千億台湾ドルずつ出資して靴のデザインと技術研究を中心とした研究所を設立した。その後、2003年に、障がい者用の補助器具や各種運動器具などの研究開発を含めた総合的な研究所となった。欠指症、糖尿病、高血圧の患者向けの靴のほか、義肢、義手、義眼、老人の車いすなどをつくる部門、「内政部矯具義具與行動輔具資源推廣中心」が併設されたのである。日本における「国立障害者リハビリテーションセンター補装具製作部」に相当する部門となる。さらに、2006年には、検査部門を増設して、靴やスポーツシューズの新素材開発に台湾内外の規格に合せた検査が350項目以上できる体制を整えている。運

動器具の開発なども行なっていて、現在のFRTの業務は多岐にわたっている。2千坪以上の敷地に3つのビルがあり、一つは本部、一つは検査機関、もう一つが障がい者向け補助器具などの研究開発センターで、百数十名が働いている。

FRT・検査部門の構成

各階案内図	
一階	二階
101 サンプルルーム Sample Room	201 皮革実験室 Leather Testing Lab.
102 多機能性靴実験室 Functional Footwear Lab.	202 紡績実験室 Textile Testing Lab.
103 研究所事務室 Office/Research	203 気温湿度実験室 Temperature and Humidity Control Testing Lab.
104 受付 Office	204 精密機器室 -1 Precision Instrument Lab.
105 耐気候・安全性検査室 Climate and Safety Testing Lab.	204 微生物機器室 -2 Microbiology Lab.
B1 安全・耐久性検査室 Endurance Testing Lab.	205 化学分析室 Chemical Analysis Lab.
	206 高分子実験室 Polymer Testing Lab.

FRTの内容と発想を象徴している標語がある。「動起来、動得好、動更快」であり、研究所本部の正面口の壁に掲げられている。訳しにくいのだが、「動かそう。よりよく動かそう。より早く動かそう」という意味である。FRTは身体機能を補助する器具を開発し、開発した結果を靴づくりや運動器具づくりに応用してきた研究開発センターといえよう。人がなんらかの障がいを乗り越えて動けるようになった時点で、リハビリや生活に取り入れられるような運動が必要になる。さらに、もっと早く快適に動かせるようにランニングやトレーニングマシンなどで鍛えるのがよい、という着想が基本となっているようである。

鞋業文化廊道を見学すると、台湾のはき

もの文化とFRTの役割がよくわかるようになっていく。まず、纏足^{てんそく}からわらじ、下駄、地下たび、バスケットシューズ、ビーチサンダル、スポーツシューズ、サイクリングシューズ、2002年ごろから流行しているプラスチック製サンダルまでの台湾のはきものづくりの歴史が紹介される。次いで、手縫い靴と靴がつくられるまでの過程について道具の展示があるが、若干日本と異なる道具の仕様があるように見受けられた。そして、靴に用いられる各種の革やプラスチック、新素材の紹介が続く。さらに、台湾で作られている各種の靴や未来の靴として歩数やスピードに加えて血圧などがわかるハイテク仕様のスポーツシューズなどが次々と現れる。今回は靴を中心にした見学となったが、運動器具を中心にした見学コースも用意してあるようだった。



総合的な研究開発センター

見学コースには、日本では主にスポーツシューズで使われている発光性や弾力吸収性、強い弾力性のあるプラスチックや合成ゴムの新素材が紹介されていた。これはFRTの開発した素材の一部で、情報の機密性から見学者が立ち入れない場所もあった。ジョイスさんによれば、FRTは新素

材を開発した時点で、スポーツシューズに限らず革靴や補装具、運動器具への応用を検討している。また、帽子や眼鏡、ベルトなどを製造している会社に積極的に素材の活用を提案している。一方で、新しい素材をつくりたい企業や個人がいれば、共同で企画や開発を行なっているという。

FRTの代表、総経理をつとめる劉競競氏によれば、2009年11月の時点での取引実績は、製靴産業関係では小売・流通が261社、メーカーが766社、また、皮革関係では136社、高分子材料では963社、バッグでは158社、運動用品では357社、補助器具では足に関するものが212社、車椅子やユニバーサルデザイン関係が108社、とのことであり着実に実績をあげてきているようである。FRTのHPでは、靴やバッグ、補助器具などのデザイン開発について総計65点が発表されており、流行を予測したパンプスやブーツ、通気性にすぐれた中敷き、立体レーザー測定結果を即座に反映させる靴型製作法のほか、電動車椅子やリハビリ機、スーツケースなど多様な品が紹介されている。

「紡織技術学院」を軸にした人材育成

FRTは技術者や経営者に向け各種セミナーを催すほか、靴とバッグのデザイナーを育成する専門学校「紡織技術学院」も併設している。人材不足は台湾の製靴産業も例外ではなく、若いデザイナーが入ってこなくなっている。先に記したように台湾区製鞋工業同業公會が設けていた製靴学校の敷地を、經濟部工業局が購入してFRTが設立されたという歴史があり、人材育成にも力をいれている。今年度で7回目の卒業生を輩出した紡織技術学院には、主にFRTにてデザインを学ぶ課程と海外に留学する課程が設けられている。募集はそれ

ぞれ5名である。台湾内で学ぶ課程に進んだ各学生の学費60万元のうち10万元は本人負担となるが、經濟部工業局による補助が30万元と企業による賛助20万元によって支えられている。FRTで学ぶ人々も1カ月イギリスに派遣される。海外組はイギリスのデ・モンフォート大学に1年留学し、修士号を取得することができる。諸学費、英国のビザ、往復の航空チケット、1年の海外保険、1年の生活費のうち、台湾の經濟部工業局が100万元を上限に総額の4割を負担する。ここで学ぶ学生はほとんどが若い女性で、すでにファッションの専門学校などに進学してから紡織技術学院で学ぶ場合もあるという。試験は筆記と面接で、海外派遣組は1年で修士号がとれるほどの高い語学力があることが前提となっている。

1年の課程を終えると、卒業生は靴と鞆をつくれる技術を要し、テーマを決めて卒業制作展を行なう。卒業制作展では、流行の動向を予想しての作品をつくるのが条件となっている。卒業生の作品は、台北の三越デパート信義店で行なわれる展覧会で発表された上、「鞋業文化廊道」の紹介コーナーで展示される。台湾で学んだ学生の作品は、台湾の人々が好む派手めな色合いを組み合わせたものが多いようである。英国に派遣された学生たちは、白と黒などの抑えた色調で洗練されたデザインの靴とバッグをつくる傾向がある。作品を見せてもらうと、巧みな人材育成戦略によって、海外輸出向けのデザイナーと台湾向けのデザイナーが養成される仕組みとなっているのが伝わってきた。企業側は、若い優秀な人材が即戦力として業界に入ってくることを期待して賛助しているという。

巧みな情報発信

FRTは情報発信の面では、2名の記者

が専従で取材・編集する月刊誌『台湾鞋訊』を発行するほか、数十万台湾ドルをかけて、アメリカなどから産業情報を買ひ、加工して発信もしている。靴づくりに関する教科書や技術書、型紙、デザイン、検査基準、生産管理、小売店経営、技術報告書など百冊以上を発行し、販売もしている。あまり規模は大きくはないが本部入口そばに図書室もあり、靴に関する本や報告書などが閲覧できる。

特筆したいのが、ホームページやブログを使っての情報発信の巧みさで、FRTは2タイプのホームページを運営している。業界向けの産業情報が満載の公式ホームページ (<http://www.bestmotion.com>) のほか、消費者向けのホームページ「漾橘子・BLOG」 (www.wretch.cc/blog/monange) も2年前から開設した。後者は現在までに累計110万以上のアクセスを達成していて、1日に2,000名から2,500名が閲覧するという。プロフィールではFRTのホームページとはあえて示さず、若い女性向けにかわいらしくおしゃれに作っている。ゲーム感覚で配色と素材、デザインを決めて、実際にパンプスやハイヒール、サンダルなどをオーダーできる企業を紹介していたり、服と靴とあわせた着こなしも提案している。

台湾では引き続き中国やベトナム、タイなどへの工場移転が進んでいる。また、中国での靴産業が盛んになっていることを反映し、FRTでは中国からの見学者と商談が中心となっている。FRTが中国と交流を深めている背景には、中国が製品の質の向上や機能性の一層の充実を図っていることがあると思われる。台湾や中国がFRTの研究成果を利用してより質の高い靴づくりをしていくことが予想されるため、今後FRTや台湾・中国の靴づくりの動向に

注目していく必要があるだろうと考えている。

「財団法人鞋類暨運動休閒科技研發中心」
住所:台中市工業区6路11号 電話:+886-(0)4-23590112 FAX:+886-(0)4-23590837
E-mail:frrt@bestmotion.com

参考文献：

財団法人鞋類暨運動休閒科技研發中心編
2010『鞋業文化廊道導覽手冊』財団法人鞋類暨運動休閒科技研發中心

川上桃子1999「第6章 ビジネス・ネットワークと産業成長——台湾・韓国製靴工業の事例」北村かよ子編『東アジアの中小企業ネットワークの現状と課題——グローバル化への積極的対応』アジア経済研究所

劉競競2009「室内健身器材設計與開發」 (<http://www.nchu.edu.tw/~crdet/2010.6.5> アクセス)

莊建中2008「台湾の名経営者 第24回 宝成集団総裁 蔡其瑞氏」ワイズコンサルティンググループホームページ<http://www.ys-consulting.com.tw/taiwan/index.php?action=1&tno=6704> (2010.4.26アクセス)

楊凱成2007『足下奇跡——台湾製鞋産業發展史』国立科学工藝博物館